

沼宮内信之：オクタマツリスゲ（カヤツリグサ科）に見られた赤色を帯びた雄鱗片

一般社団法人 日本森林技術協会

Nobuyuki NUMAKUNAI: Reddish Staminate Scales of *Carex filipes* var. *kuzakaiensis* (Cyperaceae)

Tohoku Branch Office, Japan Forest Technology Association, 1-3-6, Saien, Morioka, 020-0024 JAPAN

E-mail: nobuyuki@jafta.or.jp

Summary: The author discovered a population of *Carex filipes* Franch. & Sav. var. *kuzakaiensis* (M. Kikuchi) T. Koyama with reddish scales of staminate spikelets from Takizawa, Iwate Pref., Japan. The finding weakens the distinctiveness of the variety from its close ally var. *arakiana* (Ohwi) Ohwi with similar color of staminate scales, as the staminate scales of the former had been described pale green.

オクタマツリスゲ *Carex filipes* Franch. & Sav. var. *kuzakaiensis* (M. Kikuchi) T. Koyama は本州の東北地方に生育するとされるカヤツリグサ科の多年草であり（菊地 1958, Koyama 1962, 星野・正木 2011, 勝山 2015, 勝山・早坂 2015）、レッドデータブック 2014（環境省 2015）で絶滅危惧 IA 類 (CR)、いわてレッドデータブック（岩手県

環境生活部自然保護課 2014）で B ランクに指定されている絶滅危惧種である。

タマツリスゲ *Carex filipes* Franch. & Sav. var. *filipes* とその近縁種の識別には雄鱗片、雌鱗片、または茎の基部の鞘の赤色を帯びる場所が役に立つとみなされている（星野・正木 2011, 勝山 2015, 勝山・早坂 2015）。しかし、分布域の狭いオクタマツリスゲについては不明であった。著者は岩手県滝沢市にある岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター滝沢演習林の標高約 200 m のコナラ二次林において、オクタマツリスゲの個体群を確認し、この特徴を観察した。

生育地は 1996 年にコナラ天然下種更新試験のため強度伐採を行った場所であり（阿部・橋本 2005）、現在は伐採から約 20 年が経過し、樹高

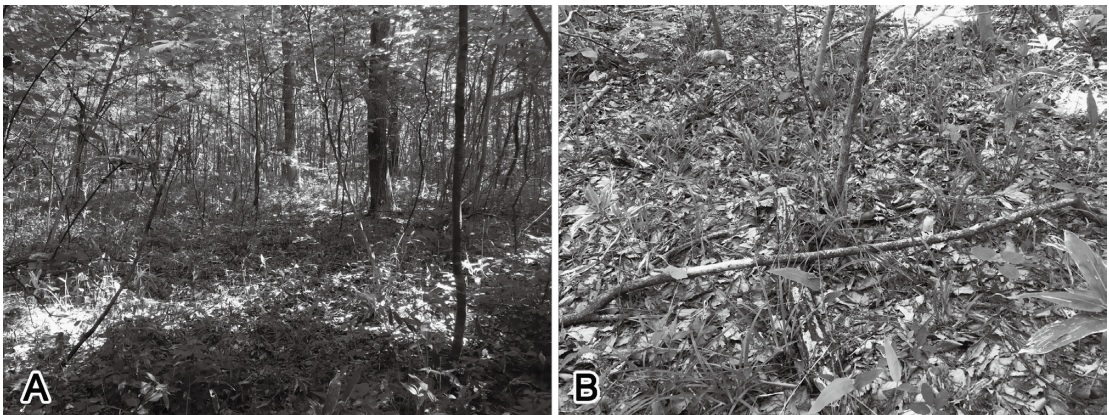


Fig. 1. *Carex filipes* Franch. & Sav. var. *kuzakaiensis* (M. Kikuchi) T. Koyama at Takizawa University Research Forest of Iwate University, Iwate Pref., Japan. A. Habitat (*Quercus serrata* secondary forest). B. Habit.

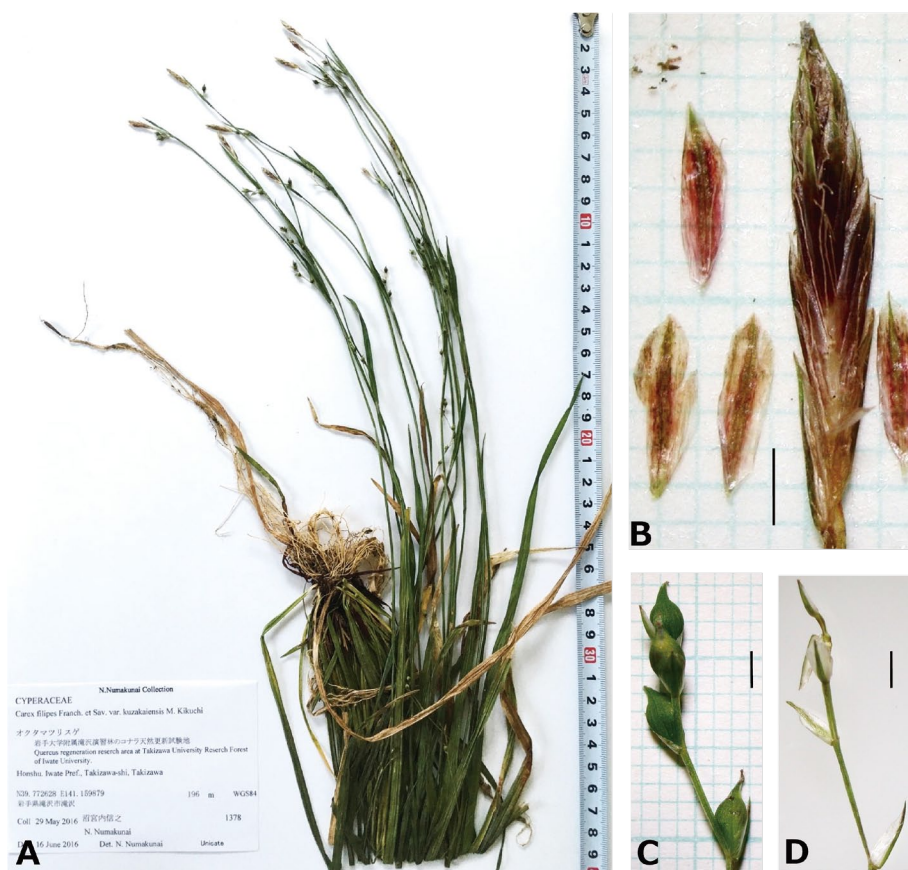


Fig. 2. Voucher specimen of *Carex filipes* Franch. & Sav. var. *kuzakaiensis* (M. Kikuchi) T. Koyama from Takizawa University Research Forest of Iwate University, Iwate Pref., Japan (N. Numakurai 1378). A. Whole plant. B. Staminate scales (left) and Staminate spike (right). C. Pistillate spike. D. Pistillate scales. Scales indicate 2 mm.

約 10 m のコナラが優占する広葉樹林が成立している (Fig. 1A). 林冠の開鎖は弱く、林床は比較的明るい環境条件の中、オクタマツリスゲは数 10 ～ 数 100 個体の個体群がコナラ二次林の中に生育していた (Fig. 1B). 雄鱗片は赤色を帯びていた (Fig. 2A, B).

今回発見された産地のオクタマツリスゲは、雄鱗片が赤色を帯びる点で、西日本の日本海側に分布するヒロハノオオタマツリスゲ *Carex filipes* Franch. & Sav. var. *arakiana* (Ohwi) Ohwi に似るが、雄小穂の柄の長さの違いによって両変種は区別できる。このことは、オクタマツリスゲのヒロハノオオタマツリスゲからの独立性を弱めるものであり、勝山 (2015) のヒロハノオオタマツリスゲの変種とする意見を支持するものである。

証拠標本は岩手県立博物館、KPM, OKAY に寄贈し、TUS, 仙台市野草園にも寄贈予定である。

本研究の一部は、すげの会第 27 回全国大会において発表し、岡山理科大学の星野卓二教授、正木智美氏、神奈川県立生命の星・地球博物館の勝山輝男氏、群馬県立自然史博物館の大森威宏氏、堀内 洋氏から有益な助言を頂いた。岩手大学農学部の白旗 学助教、演習林職員の方々には生育調査で便宜を図っていただいた。以上の皆様に感謝申し上げる。

要 旨

著者は雄鱗片が赤色を帯びるオクタマツリスゲを確認した。本研究は、オクタマツリスゲをヒロ

ハノオオタマツリスゲの変種とするという意見を支持するものである。

引用文献

- 阿部信之, 橋本良二 2005. コナラ天然下種更新における小形掘削機による地床処理の効果—雑草木の発達制御と実生の定着—. 岩手大学農学部演習林報告 **36**: 47–60.
- 星野卓二, 正木智美, 西本眞理子 2011. 日本カヤツリグサ科植物図譜. 平凡社, 東京.
- 岩手県環境生活部自然保護課 2014. いわてレッドデータブック. 岩手県環境生活部自然保護課, 盛岡.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 2015. レッドデータブック 2014 日本の絶滅のおそれのある野生生物 8 植物. ぎょうせい, 東京.
- 勝山輝男 2015. 日本のスゲ. 文一総合出版, 東京.
- 勝山輝男, 早坂英介 2015. カヤツリグサ科. 大橋広好, 門田裕一, 邑田 仁, 米倉浩司, 木原 浩 (編), 改訂新版日本の野生植物 1. 平凡社, 東京.
- 菊地政雄 1958. 北日本植物考察 1. 岩手大学学芸学部研究年報 **13**: 47–50.
- Koyama T. 1962. Classification of the family *Cyperaceae* 2. J. Fac. Sci. Univ. Tokyo, Sect. III, Bot. **8**: 149–278.